

千歳基地への米軍機訓練移転に関する地域懇談会

在日米軍再編に伴う千歳基地への訓練移転問題につきまして、去る5月8日に国の機関である札幌防衛施設局から「千歳飛行場を含む国内6カ所の飛行場に訓練移転することが決定した。」との説明があり、また、5月30日には政府の基本方針が閣議決定されたところですが、新市長の就任に伴い改めて皆さんのご意見をお伺いいたします。

在日米軍再編問題に関するこれまでの経過

【10月31日(月)】

・土屋札幌防衛施設局長が来庁し、中間報告に関する概要説明を受ける。

【11月2日(水)】

・苫小牧市航空機騒音対策協議会を開催し、国からの説明があった概要を説明。

【11月21日(月)】

・札幌防衛施設局長宛て、9項目の質問状を送付。

【11月28日(月)～30日(水)】

・職員3名を沖縄県(嘉手納町他)へ派遣。

【11月29日(火)】

・木村防衛庁副長官・北原防衛施設庁長官らが来庁。

【12月2日(金)】

・市長記者会見

「訓練移転は受入れ難い。」と表明。

【12月5日(月)】

・札幌防衛施設局長宛て、

「在日米軍再編に伴う米軍戦闘機訓練の分散・移転に対する苫小牧市の考え方」を送付。

【1月6日(金)】

・苫小牧市在日米軍再編問題対策委員会設置。

【1月30日(月)～2月1日(水)】

・職員2名を山口県(岩国市、由宇町)へ派遣。

【3月21日(火)】

・札幌防衛施設局長が来庁し、訓練移転に関する米側との協議内容に関する説明を受ける。

・市長記者会見

「訓練移転には反対である。」と表明。

【3月28日(火)】

・市長が防衛庁長官並びに防衛施設庁長官へ要望書を提出。

・苫小牧市航空機騒音対策協議会にて市長が考え方を説明。

【4月1日付け】

・苫小牧市在日米軍再編問題対策会議を設置。

【4月6日(木)】

・苫小牧商工会議所との意見交換。

【4月10日(月)】

・苫小牧市町内会連合会との意見交換。

【4月18日(火)】

・札幌防衛施設局から質問状に対する回答が出そろふ。

【4月26日(水)】

・戸田防衛施設次長、土屋札幌防衛施設局長が来庁し、米軍機飛行回数試算等の説明を受ける。

・市長からは、反対姿勢に変わりがないことを伝える。

【5月8日(月)】

・土屋札幌防衛施設局長が来庁し、最終決定内容の説明を受ける。

・市長記者会見

「市民の安全と生活環境を守って頂きたいという地元の意を受け入れられなかったことは遺憾であり、反対の気持ちに変わりがない。」と表明。

【5月10日(水)】

・苫小牧商工会議所との意見交換。

【5月11日(木)】

・苫小牧市町内会連合会との意見交換。

【5月15日(月)】

・市議会総合開発特別委員会を開催し、最終決定内容等を説明。

・苫小牧市航空機騒音対策協議会を開催し、最終決定内容等を説明。

【5月22日(月)】

・地域説明会を開催。(拓勇小学校)

【5月23日(火)】

・札幌防衛施設局長宛て23項目の質問状を送付。

【5月30日(火)】

・在日米軍再編に関する政府の基本方針が閣議決定される。

・札幌防衛施設局長宛て7項目の追加質問状を送付。

【6月1日(木)】

・地域説明会を開催。(植苗ファミリーセンター)

【6月2日(金)】

・札幌防衛施設局より30項目の質問状に対する一部回答(16項目)を得る。

【6月3日(土)】

・地域説明会を開催。(勇弘公民館体育館)

【6月8日(木)】

・市議会総合開発特別委員会を開催。

【6月28日(水)】

・市議会総合開発特別委員会を開催。

【6月30日(金)】

・札幌防衛施設局より30項目の質問状に対する未回答項目の回答を得る。

～ 最終決定として取りまとめられた訓練移転項目の内容 ～

1. 日米両国は、平成19年度からの共同訓練に関する年間計画を作成し、平成18年度については、必要に応じて計画が作成されることもあり得る。
2. 嘉手納飛行場、三沢飛行場及び岩国飛行場の米軍施設の航空機が、千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原の自衛隊施設の移転訓練に参加する。
3. 日本国政府は、実地調査を行った上で、必要に応じて、自衛隊施設に訓練移転のための基盤施設を改善する。
4. 移転される訓練については、在日米軍が現在行っている訓練の質を低下させることはない。
5. 一般に共同訓練は、1回につき1～5機の航空機が1～7日間参加するものから始め、6～12機の航空機が8～14日間参加する訓練へと発展させる。
6. 日米合同委員会合意で定められている自衛隊施設の使用条件については、年間回数を撤廃し、年間合計日数と1回の訓練期間に関する制限は維持される。
7. 日米両政府は、共同訓練の費用を適切に分担する。

訓練移転の具体的な内容

1. 訓練移転の目的

嘉手納飛行場を始め、国内米軍基地における負担軽減を図る。
自衛隊と米軍との相互運用性を向上させる。

2. 訓練の形式

航空自衛隊との共同訓練であり、米軍の単独訓練は想定していない。

3. 千歳飛行場の使用条件

航空自衛隊千歳飛行場では、日米地位協定に基づく日米合同委員会合意により、使用条件が定められておりますが、その使用条件が下記のとおり変更されます。

【現在の使用条件】

- ・年間約4回各3日～20日
 - ・年間60日以内
- (平成7年10月3日閣議決定)



【変更後の使用条件】

- ・各3日～20日
 - ・年間60日以内
- 年間約4回の制限を撤廃

4. 基地使用の対応

米軍機の基地使用の対応については、航空自衛隊と同様とし、深夜・早朝(22時～翌朝7時)、土・日・祝日の飛行は原則実施しない。

5. 施設整備

現地調査を実施の上、必要に応じて施設整備の実施について計画する。
施設については、例えば、駐機場、整備格納庫、宿泊施設などが想定されます。

6. 千歳基地における訓練移転の規模及び飛行回数の試算

(1) 訓練移転の規模

当初はタイプ1の訓練を実施し、その後、タイプ1やタイプ2の訓練双方を実施していく。

訓練規模	米軍航空機の規模	訓練期間
タイプ1	1～5機程度	1～7日間程度
タイプ2	6～12機程度	8～14日間程度

訓練タイプについては、典型的な移転訓練のイメージであるとされています。

(2) 飛行回数の試算

これは、仮に千歳基地において、使用条件日数の上限60日全てを使用して日米共同訓練が行われた場合の、米軍機の飛行回数の増加分を試算したものです。

なお、この試算は、あくまでも参考の一例として、いくつかの仮定を設けて試算したものであり、国からの説明では、これをもって米軍の飛行回数を規定するものではないとされております。

タイプ1とタイプ2の使用日数の比率を1：1として仮定する。

訓練規模	機数	訓練期間	回数	使用日数
タイプ1	5機	4～5日間	7回	30日
タイプ2	12機	10日間	3回	30日

計 60日

飛行回数試算の計算

訓練規模	飛行回数	試算合計
タイプ1	5機 × 30日 × 5回/日 = 750回	1,902回
タイプ2	【実訓練期間】 (12機 × 6日 × 5回/日) × 3回/年 = 1,080回 【準備・撤収期間】 (12機 × 2日 × 1回/日) × 3回/年 = 72回	

注1) 1日の飛行回数は、午前と午後の訓練で離着陸を各1回、及び着陸時に慣熟訓練を1回行うものとして、1機1日当たり5回の離着陸と仮定しています。

注2) タイプ2の場合、訓練期間が10日間のため、原則土・日曜日は飛行自粛とし、実訓練日数を8日間と仮定している。

注3) タイプ2の場合、訓練期間の最初と最後の日は、準備・撤収期間として実訓練は行わず、各1回/日の飛行と仮定している。

上記飛行試算回数(1,902回)は、民航機を含めた千歳基地全体の管制回数(離着陸等の管制上の取扱い回数)約133,000回の約1.4%、自衛隊機の管制回数約21,000回の約9.0%に相当するものです。

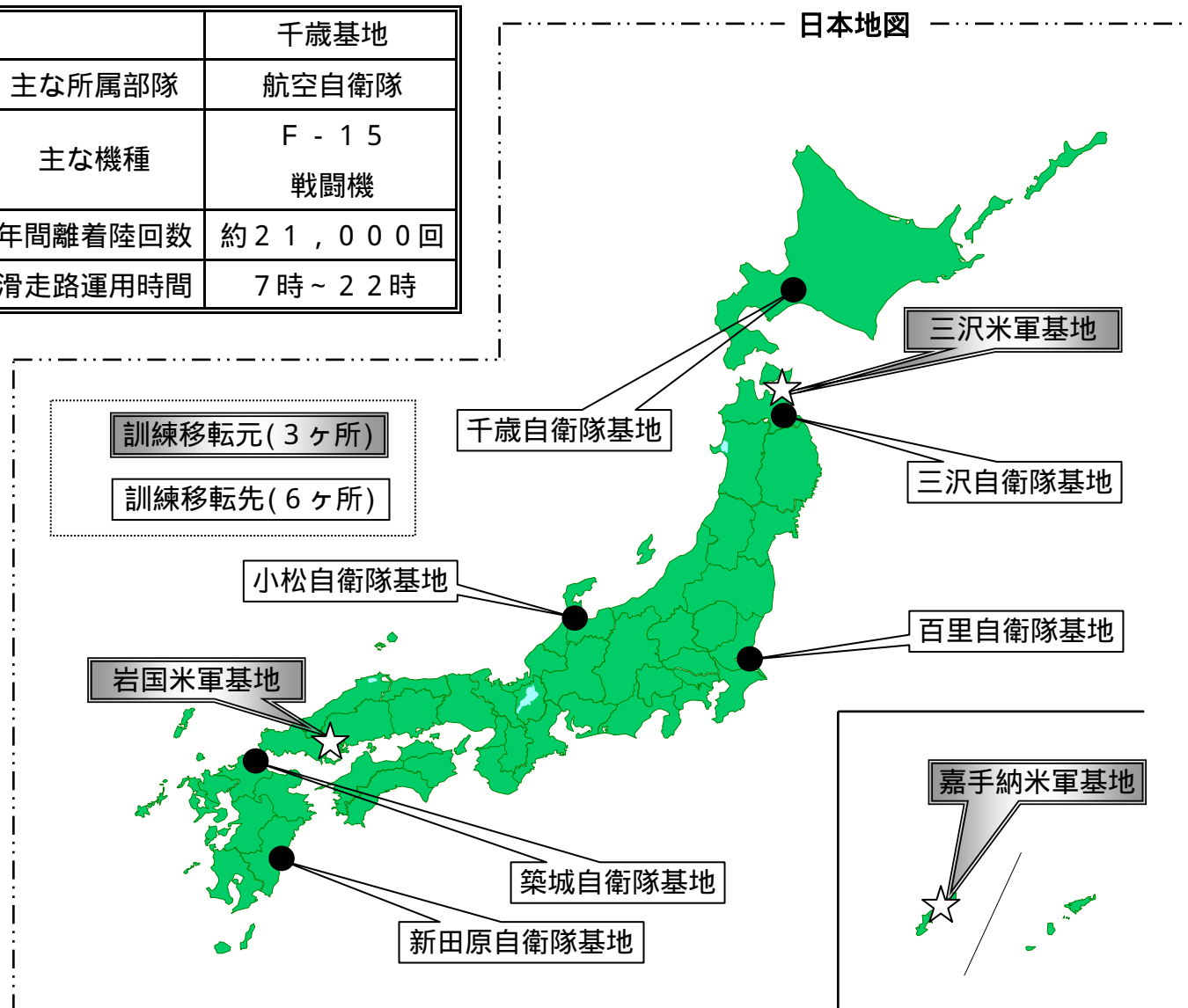
訓練移転元である国内米軍基地の状況

【米軍基地の概要】

	嘉手納基地 (沖縄県)	岩国基地 (山口県)	三沢基地 (青森県)
主な所属部隊	米空軍	米海兵隊	米空軍
主な機種	F - 15 戦闘機	F A - 18 戦闘機	F - 16 戦闘機
年間離着陸回数	約72,000回	約47,000回	約68,000回
滑走路運用時間	6時～22時	6時30分～23時	6時～22時

【千歳基地の概要】

	千歳基地
主な所属部隊	航空自衛隊
主な機種	F - 15 戦闘機
年間離着陸回数	約21,000回
滑走路運用時間	7時～22時



お問い合わせ先: 苫小牧市企画課企画係 TEL32-6111(内線2752)